

■ 公園の概要と経緯

大通公園の概要

【所在】札幌市中央区大通西1～12丁目【面積】78,901㎡【種別】特殊公園
 【変遷】明治4年（1871年）開拓使により火防線等を目的に広幅員の道路を整備
 明治44年（1911年）西3～7丁目において本格的な公園整備
 昭和25年（1950年）さっぽろ雪まつり初開催
 昭和43年（1968年）札幌市創建百年記念事業として西1・2丁目を公園化、西4丁目などで噴水を整備
 昭和55年（1980年）都市公園法を適用して大通公園として告示
 平成元年（1989年）大通公園リフレッシュ事業により再整備（～1994年完成）



大通公園のあり方検討・基本計画検討の経緯

●行政計画 ■緑の審議会 □大通公園のあり方検討会

年度	月	経緯
令和5年度 (2023年度)	9月	■第94回 緑の審議会 (9/19)
	10月	●札幌市都心のみどりづくり方針 ●大通及びその周辺の街づくり方針 -札幌都心はぐくみの軸強化方針-
	11月	□第1回あり方検討会 (11/2) ・大通公園の魅力と機能の向上について
	12月	□第2回あり方検討会 (12/18) ・「いこい」と「にぎわい」の両立について
	3月	□第3回あり方検討会 (3/18) ・沿道と連携したみどりの軸の強化について
令和6年度 (2024年度)	5月	■第95回 緑の審議会 (5/14) ・検討状況の中間報告
	7月	□第4回あり方検討会 (7/11) ・誰もが利用しやすい公園づくり、大通公園のあり方（骨子案）
	8月	○大通公園のあり方検討に係るオープンハウス (8/2～8/3)
	10月	□第5回あり方検討会 (10/21) ・大通公園のあり方（素案）について
	1月	□第6回あり方検討会 (1/27) ・大通公園のあり方（案）について
	3月	■第97回 緑の審議会 (3/13) ●大通公園のあり方
令和7年度 (2025年度)	4月～	大通公園の基本計画詳細検討

■ 現状と課題

1. 大通公園の魅力と機能の向上

【大通公園の現状】

- 都心の中のみどりの豊かさや、大倉山・テレビ塔への眺望などは市民から親しみ愛されてきた。
- 平成の再整備時から大きく育った樹木はみどりの軸を強化させてきた。
- 公園周辺に保育施設が増えたこと、イベント開催期間や回数の増加などにより、利用目的・利用時間の変化が生じてきた。
- 指定管理制度導入により一定の管理水準を図っている。

【主な課題】

- 沿道との一体感を醸成できる適切な緑量の検討および、腐朽木・老木への対応や鬱蒼とした樹林環境の改善が必要。
- 平成の再整備当時からおよそ30年が経過し、公園施設全体、特に電気・機械設備系の老朽化が深刻である。
- 時代やニーズの変化に合わせた公園施設の更新が求められる。
- 柔軟な管理運営手法の検討や活用が必要である。



2. 「いこい」と「にぎわい」の両立

【大通公園の現状】

- 大通公園の利用者は「美しい景観」「みどり」「水景空間」などを公園の魅力と認識している。
- 大通公園は1年を通してイベントが多く開催され、来場者の増加に伴い経済波及効果が大きく、公園におけるにぎわい機能を担っている。
- 大通公園でのイベントを楽しみにしている市民も多い一方で、公園本来の機能である休息や滞留といった日常利用を求める声もある。

【主な課題】

- 日常利用とイベント利用の双方の機能が求められているが、日常利用できる期間およびエリアに制限がある。
- イベントの準備期間短縮につながるような施設整備が求められている。
- 多様なニーズがある大通公園ではソフト面に関する検討も必要である。



3. 沿道と連携したみどりの軸の強化

【大通公園の現状】

- 平成の再整備時から大きく育った樹木はみどりの軸を強化させてきた。（再掲）
- 周辺では民間の建物更新の機運が高まっており、大通公園のみどりを意識した開発の動きも見られる。

【主な課題】

- 平成の再整備時より樹木が大きくなり、遮蔽部分の増加、維持管理費の増加、道路への越境が課題である。
- 日常的な駐輪や路上喫煙、公園施設の配置状況、イベント時のプレハブ設置、樹木の成長などにより、沿道とのつながりが薄れている。
- 公園側歩道部（2m歩道）は、狭さや土舗装による歩きにくさ、駐輪、道路施設などがあり、歩行空間としてあまり利用されていない。
- 大通公園と沿道の空間的な一体感に欠ける。



■ テーマ・コンセプト

インクルーシブ グリーン コリドー

大通公園のあり方： **Inclusive “Green” Corridor** ~誰もが思い思いに過ごせるみどりの空間~

防火帯から市民の憩いの場となり、公園・道路・沿道が一体となった空間形成を目指している背景を踏まえ、今後もみどり豊かな空間であるとともに、多様な価値観を受け入れ、誰もが互いに尊重しあうこれからの時代にふさわしい象徴空間を目指す

01-1 歴史性・地域性

- みどり豊かないこいの空間の継承
- 市民に親しみ・愛されてきた象徴性の継承
- 都心のオアシスである水景空間の継承
- 歴史・文化を象徴する野外彫刻などの継承



02-1 生活の場（日常）

- 四季を通じて、日常的に大人から子供までが思い思いに過ごせる空間の創出
- 年齢、性別、国籍、障がいの有無などにかかわらず使いやすい空間の整備



03-1 都市の中心にあるみどり

- 中長期的な視点で樹木の健全化を図り、都心部の豊かで良好なみどり空間を維持・向上
- 芝生や花壇に一層親しむことのできる環境やみどりを身近に感じられる機会を創出
- 都心のオアシスである水景空間の更新



04-1 連続した軸としての一体性

- 大通公園の特徴や成り立ちを踏まえた一体性のある景観形成
- 大通公園西側、創成東地区、時計台への人の流れや回遊性を意識した空間形成
- 街区間のつながりを持たせた空間形成や利活用方針の検討



05-1 公共によるマネジメント

- 持続的な管理運営を図るため、都市公園に関わる収入の公園施設への還元を検討
- 公園の周辺ならではの開発インセンティブの促進
- 公園利用ルールの検討



01

過去と未来を重ね合わせる

大通公園が持つ歴史や文化、象徴性を継承するとともに、これからの時代にふさわしい機能や空間を付加していくことで、新たな価値を創出していく

02

日常と非日常を重ね合わせる

日常的に誰もが思い思いに過ごせる空間を創出するとともに、札幌ならではのにぎわいを創出していくことで、大通公園の魅力を高めていく

03

都心のみどりとまちなみを重ね合わせる

都心の中心にある公園として質の高いみどり空間を創出するとともに、まちの回遊拠点としての役割も高めていくことで、みどりとまちなみの一体感を醸成していく

04

一体性と個性を重ね合わせる

1.5kmに及ぶ1つの公園としての一体性を保つとともに、各街区の個性や変化をより感じられる施設計画を行うことで、歩きたくなる空間を創出していく

05

公共と民間の強みを重ね合わせる

公共によるマネジメントだけにとどまらず、民間事業者・市民団体の活力をこれまで以上に活かすことで、持続可能な施設整備や管理運営を達成していく

01-2 将来性・国際性

- 環境配慮型の施設整備、再生可能エネルギーの活用、グリーンインフラとしての機能向上
- 国内外の人々が集い、交流を生み出す空間形成
- デジタル機能を活用した利用者サービスの向上や管理運営の効率化



02-2 発信の場（非日常）

- 多様な日常利用とイベント利用の両立を図る最適な空間配置の検討
- 札幌らしさ、大通公園らしさを発信できる魅力的なイベントなどによる、にぎわい創出の仕組みの検討



03-2 みどりと近接したまちなみ

- 都心部の回遊拠点として、まちとつながり、アクセシビリティ・回遊性を高める公園環境の整備
- 大通全体のにぎわい創出や地上地下結節等に資する公園と沿道との一体感を高める空間整備



04-2 各街区の個性

- 丁目ごとの変化が感じられ、歩きたくなる空間の形成
- 沿道の土地利用や建物状況に応じた空間機能の一体性の確保
- 景観に配慮した施設の整備

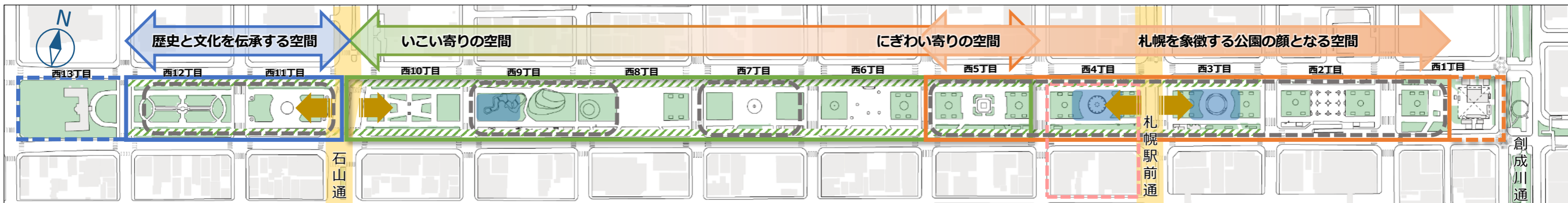


05-2 民間事業者・市民団体の活力

- 民間事業者や市民団体の力を活かした管理運営や施設整備の推進
- 都心の活性化に係る幅広い民間の公園活用のアイデアを受け止められる仕組みの検討



大通西4南再開発（イメージ）
出典：大通西4南地区市街地再開発組合



第4次札幌市みどりの基本計画
令和2年（2020年）3月

札幌市都心のみどりづくり方針
令和5年（2023年）10月

大通およびその周辺の街づくり方針
-札幌都心はぐくみの軸強化方針-
令和5年（2023年）10月

大通公園のあり方 令和7年（2025年）3月

01 過去と未来を重ね合わせる

大通公園が持つ歴史や文化、象徴性を継承するとともに、これからの時代にふさわしい機能や空間を付加していくことで、新たな価値を創出していく

02 日常と非日常を重ね合わせる

日常的に誰もが思い思いに過ごせる空間を創出するとともに、札幌ならではのにぎわいを創出していくことで、大通公園の魅力を高めていく

03 都心のみどりとまちなみを重ね合わせる

都心の中心にある公園として質の高いみどり空間を創出するとともに、まちの回遊拠点としての役割も高めていくことで、みどりとまちなみの一体感を醸成していく

04 一体性と個性を重ね合わせる

1.5kmに及ぶ1つの公園としての一体性を保つとともに、各街区の個性や変化をより感じられる施設計画を行うことで、歩きたくなる空間を創出していく

05 公共と民間の強みを重ね合わせる

公共によるマネジメントだけにとどまらず、民間事業者・市民団体の活力をこれまで以上に活かすことで、持続可能な施設整備や管理運営を達成していく



出典：大通西4南地区市街地再開発組合

調査・検討事項、現況・課題の確認

✓ 平成の再整備における考え方

✓ 公園施設の現況調査

✓ 樹木調査・簡易診断

✓ 測量調査

✓ 市民意見

✓ 観光関連団体

✓ 大通公園の現況および課題

その他関連する上位計画等

✓ Well-Moving City SAPPORO 2045ビジョン（素案）におけるリーディングプロジェクトに設定

□ 大通公園周辺

- 平成元年の再整備から30年以上が経過し、施設の老朽化が進むとともに公園に求められる役割も変化していることから、魅力ある公園づくりに向けた検討を進めています。
- また、街区・道路・公園の一体感がある居心地がよく歩きたくなる空間形成に向けた検討を進めます。



出典：「Well-Moving City SAPPORO 2045 ビジョン（素案）」の説明（令和7年（2025年）7月29日）

✓ 第3次都心まちづくり計画検討会（および居心地が良く歩きたくなる都心まちづくり検討部会）における議論事項より（抜粋）

- 都心まちづくりの理念「世界が憧れ、市民が誇れる、札幌・北海道の都心」
- 目標1 多様なひと・もの・ことが集まり新たな産業・文化・交流が生まれる都心
- 目標2 冬でも、誰でも、まち巡りが楽しい都心
- 目標3 気候風土に即した先進的な脱炭素化・強靱化の取組が進む都心

5つの分野別の計画に反映

(1) 空間計画

(2) 植栽計画

(3) 施設計画

(4) 環境計画

(5) 管理運営計画

基本計画書

■空間計画について（空間構成 / ゾーニング / 景観・デザイン / 動線）

基本計画の考え方

<凡例>
太字：議論のポイント

【大通公園の持つレガシーの強化】

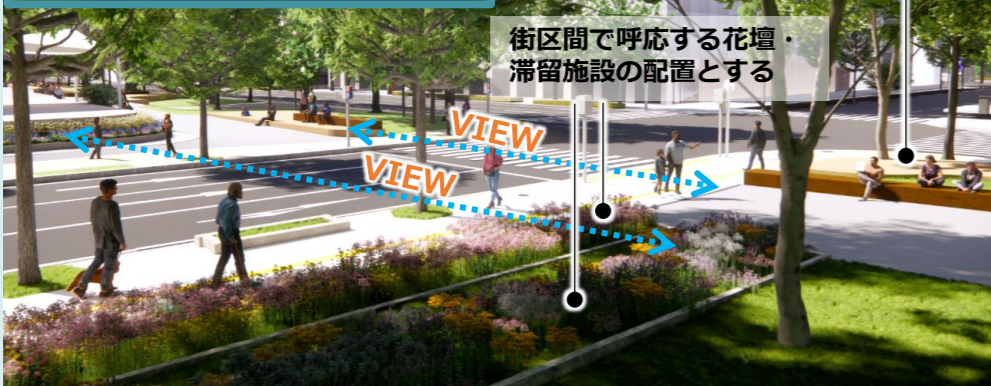
- 大通公園の重要なレガシーの一つである直線的な園路およびビスタを継承し、**ランドマークであるテレビ塔などへの視線のつながりを確保・強化**する。また、南北の樹林帯を丁寧に保全しながらその豊かさを身近に感じられるよう、**樹林内に逍遙的景観を感じられる憩いの滞在空間を創出**する。

【具体的な取組のイメージ】

Before



After

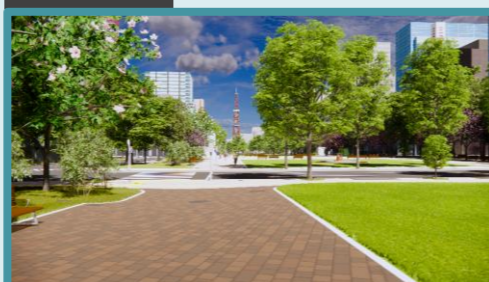


街角に対して開き、広場へのアクセス性を向上

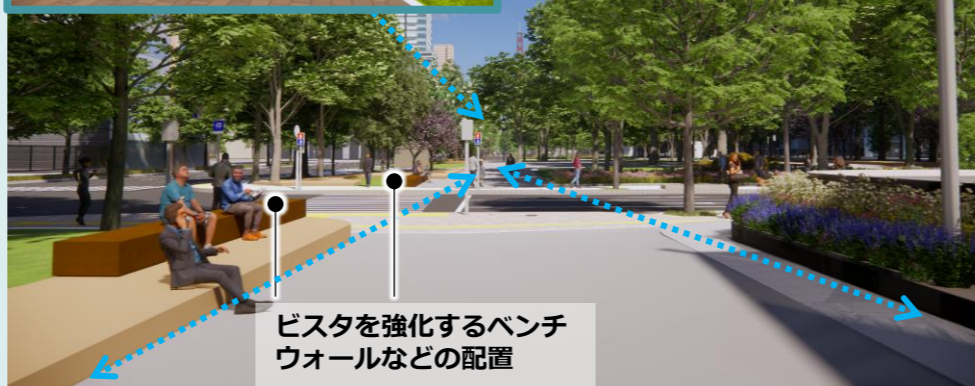
街区間で呼応する花壇・滞留施設の配置とする

道路を挟んだ街区間で花壇・ベンチウォール等の設えを合わせ、つながりを強化。併せて**沿道からの視認性・アクセス性を向上**させる。

Before



After



ビスタを強化するベンチウォールなどの配置

東西方向の園路において、**テレビ塔へのビスタ**（視覚的なつながり）を、**並木・舗装・ベンチ等により強化**する。

Before

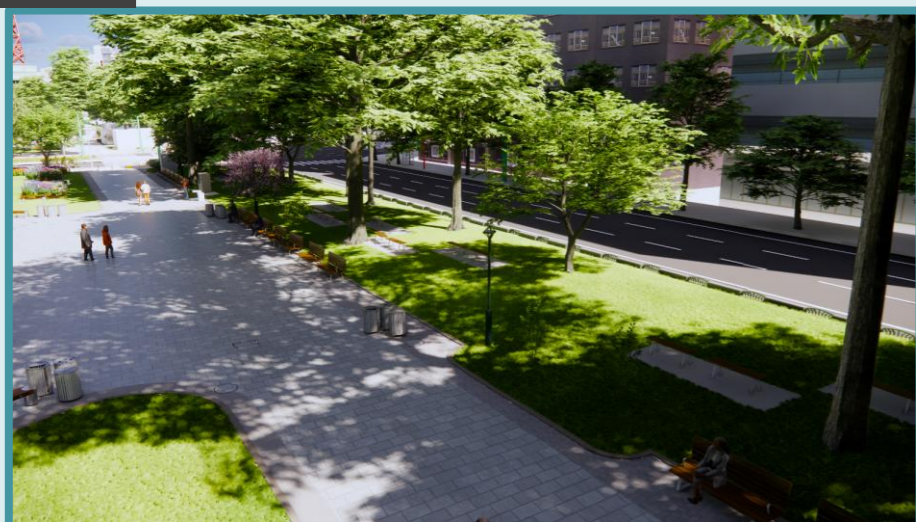


After



テレビ塔全体を周囲の緑とともに見せる「**引き**」を尊重し、鑑賞しやすい空間やテレビ塔を背景に多様なアクティビティを体験できる場を形成する。

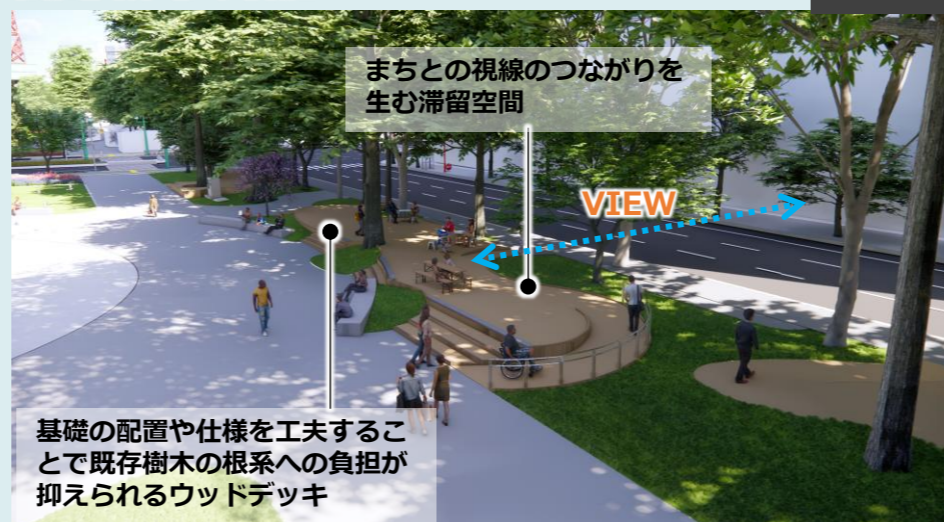
Before



樹林帯内では林床の裸地化や露出根の増加が顕在化しており、滞留空間として機能しておらず、近接街区とのつながりが作りづらい状況である。

公園内からの視点

After



まちとの視線のつながりを生む滞留空間

基礎の配置や仕様を工夫することで既存樹木の根系への負担が抑えられるウッドデッキ

樹林環境に配慮したウッドデッキ等を導入し、安全性・滞留性の向上と健全な樹木生育環境の再構築を図ることで、**南北のつながりを創出**する。

沿道（公園外）からの視点

After



ウッドデッキ・ベンチ等を設置

沿道から視認可能となる空間

南北樹林帯は道路を挟んだ位置からも**公園内の活動・にぎわい等が身近に感じられる空間となる整備計画**とする。